

産地収益力向上支援事業（広域推進）に関する事業評価票

事業実施主体名	新技術の内容	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成23年	目標年 令和4年	目標値	達成率		
埼玉県	ナシジョイント仕立て、ナシ早期成園化技術	24年度	ジョイント仕立て技術を導入した面積の増加 導入面積：10.0ha	1.2ha	6.2ha ※埼玉式早期成園化技術と合算すると27.7ha	10.0ha	62% ※埼玉式早期成園化技術と合算すると277%	高樹齢化が進むナシの生産力向上のため、早期に収量を確保できる「樹体ジョイント仕立て」と「早期成園化技術」による改植を推進することとし、実証ほの設置や現地検討会等を通じて生産者への普及を図った。事業終了後も個別巡回や現地検討会を通じた普及活動を継続した結果、ジョイント栽培の面積は6.2ha（令和4年度）まで拡大し、早期の収量の確保が可能になった。	埼玉県では、品種を選ばず、小規模の改植でも早期成園化のメリットを発揮しやすい「埼玉式早期成園化技術」を確立し、ジョイント栽培と併せて推進してきたところ、同技術の導入面積が16.7ha拡大し、ジョイント栽培よりも普及性の高い主要技術となっている。両技術を合わせた早期成園化技術の導入面積は27.7haと増加しており、達成と評価できることから、今回をもって評価終了とする。

産地収益力向上支援事業（広域推進）に関する事業評価票

事業実施主体名	新技術の内容	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成24年	目標年 令和4年	目標値	達成率		
埼玉県	トルコギキョウの低コスト生産技術の普及	25年度	実証ほを核としてトルコギキョウの低コスト生産技術の導入した面積の増加 導入面積1.5ha	0ha	0.5ha	1.5ha	33%	冬季の需要が期待できるトルコギキョウの冬季安定生産のため、農研機構が開発した低コスト冬季計画生産技術を推進することとし、実証ほの設置や現地検討会等を通じて生産者への普及を図った。事業終了後も個別巡回や現地検討会を通じた普及活動を継続した結果、冬季の栽培面積は0.5ha（令和4年度）となった。	埼玉県のトルコギキョウ栽培は、令和2～3年度の新型コロナウイルス感染症の影響により市場価格が低迷したこと、近年の育苗時（8～9月）の高温によりロゼット化する苗が発生し生育が遅延し、ロットがまとまらないため市場の優位性が低下するなどの問題が生じている。 本事業により、計画策定時には0haだった冬季の栽培面積が0.5haとなり、一定の成果はあったと評価できるものの、上記の社会経済情勢の変化等を踏まえ、今回をもって評価を終了する。

事業実施主体名	新技術の内容	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成24年	目標年 令和4年	目標値	達成率		
埼玉県	クリ「ぼろたん」の生産拡大	25年度	ぼろたんを導入した面積の増加 導入面積：70ha	14ha	43ha	70ha	61%	高樹齢化が進むクリの生産力向上のため、「ぼろたん」の改植を推進することとし、実証ほの設置や現地検討会等を通じて生産者への普及を図った。事業終了後も個別巡回や現地検討会を通じた普及活動を継続した結果、「ぼろたん」の栽培面積は43ha（令和4年度）まで拡大した。	クリについては、国内市場は縮小傾向にあるとともに、消費者が皮を剥き調理する茹で栗などの家庭消費が減少する一方で、食習慣の変化や嗜好の多様化から、加工品・外食などの業務利用のニーズは最近特に高まりが顕著になってきている。これまで、渋皮を剥きやすい「ぼろたん」は、家庭消費をターゲットに直売や小売店での販売を強化してきたが、加工・業務用では機械で皮を剥くため、渋皮の剥きやすさは重視されず、より食味に特徴のある高品質なクリ品種の需要が増加している。 本事業により、計画策定時には14haだった栽培面積が43haとなり、一定の成果はあったと評価できるものの、上記の社会経済情勢の変化を踏まえ、今回をもって評価を終了する。